

# 第2回「55年目の発掘と褒賞」 持続可能な農業目指す

J Aあづみ創立55周年記念企画として令和2、3年度の3年間、各年開催する「55年目の発掘と褒賞」安曇野の大地への愛と誇りを「は2年目を迎え、3部門で本年度の受賞者を表彰しました。」「長きにわたり命の源である農畜産物を生み出す農業を精力的に守り続ける農業者やその後継者、未来の農業を担う農業者など幅広い世代層にスポットをあてることで、今後の農業振興に繋げていくこと」を目的に、昨年6月7日、同褒賞の考案者である映画監督の河崎義祐さんを審査委員長に、外部審査員4人、JA役員7人で構成する審査委員会が厳正な審議を行い、推薦された12人の候補者から3人を選出し、6月19日の「安曇野の農業を守り、つなぐ農業者のつどい」において表彰し功績を称えました。受賞者を招き河崎審査委員長、千國組合長と開催した受賞者座談会の様子の一部を紹介します。



河崎義祐審査委員長

**河崎審査委員長** 初めてこの企画について千國組合長とお話ししたのは数年前になります。農業は勉強すればするほど難しい。この安曇野の大地で農業をやってご苦労をされている方に、心からお礼を申し上げたいという気持ちからこの企画が生まれました。今日は率直なご意見をいただき、勉強させていただきます。期待しております。

**千國組合長** J Aあづみ創立55周年の企画として行っている「55年目の発掘と褒賞」の2年目が令和3年度であり、皆さんが栄えある賞を受賞されました。長きにわたり農業を支えてきた人、それを受け継ぐ人、また新たに未来をつくる人、その方々に、今日は思いのたけを語っていただければと思います。

## 経歴と経営概況

**高山さん** 酪農と水稲の栽培に励み、水稲1・9畝、牧草6畝、デントコーン2・5畝を栽培し、17頭の搾乳牛を飼育しています。高校卒業後、乳業会社に16年勤務したことで得た、乳製品に関する知識が役立ちました。牧草やデントコーンを作り、粗飼料を何としても自給で

間に合わせたことややってきて、通年一定した飼料を与えられることが、牛の成績によい影響をもたらしていると思います。

**荒芝さん** 農業をやっていた父親の苦労を見て違う仕事に就きたいと、IT関係の仕事で20数年間やりました。生まれ育った所で農業者が激減していると聞き、45歳のときに就農しました。現在に至って10年で圃場は3倍程度になり、自分の経営だけではなく地域の農業者全体を

取り込んだことをやっていたかなければと思い始めました。農林水産省の「多面的機能支払交付金」事業を活用し「新屋農地保全会」「有明の土地と水の会」と「有明散歩の会」の設立に携わり活動しています。農業者や住民が心も体も豊かな生活を送れるような状況を作っていければと願っています。

**立石さん** 平成27年に、ここで農業をやらずしてどうするんだと決意をして、この業界に入ってきました。その後、平成30年に独立し、現在はナシを80畝とリンゴを80畝栽培しております。先進技術を導入し、ナシは「ジョイント栽培」、リンゴは「高密度栽培」に取り組んでいます。今年は担い手のない畑をジョイント栽培に切り替えて、新たな畑を作りこんでいこうと奮闘中です。

**立石さん** 非農家から参入したのは単純に農業をやりたいからというのが一番の思いです。農業がどれほど人間にとって大切なのか、生活の基盤となっている産業なのかを強く認識するようになり、まずは自分自身が生産者としてこれを担っている立場になるということを実現し、その上で農業を法人化して雇用をするなど、担い手不足の解消に少しでも取り組んでいけたらと考えています。まだまだ道半ばですが、そのような状況でも評価をいただけたということは大変嬉しく思っております。

**河崎審査委員長** お話しをお聞きして3人の方と私の共通点があり、遠回りというよい経験をされたと感じました。コロナ禍はローカルへの移住という面で安曇野にとってチャンスでもあります。3人の方をリーダーとして、その輪が安曇野全体に広がることを期待致します。

**千國組合長** 2回目となったこの座談会は、初回に続き更に素晴らしいものとなりました。J Aあづみでは「持続可能性」を長期構想のキーワードとしており、総じて次の時代に繋げていくためにどうするかということになります。受賞を一つの契機として、更なる高みを目指してご研鑽いただき、安曇野の農業振興のためにご活躍をいただきたいと思っております。



## 「55年目の発掘と褒賞」受賞者

新規就農者部門  
(敢闘賞)



立石稔さん  
安曇野市三郷小倉

後継者部門  
(殊勲賞)



荒芝裕一さん  
安曇野市穂高有明

研究開発部門  
(金賞)



高山計明さん  
松本市梓川俊

**高山さん** 普通の生産量は乳牛1頭当たり8000〜8500kgですが、私は1万kgを達成してきたことが評価されたと思っております。県内に170頭しかいない「長野県ホルスタイン名誉原種牛」には2頭認定されています。経費を抑え生産量を上げるために質の高い雌雄牛を選定し「乳牛の改良」をしてきました。また就農以来、月1回乳成分や体細胞など全国の加盟



JAあづみ千國茂組合長

が、遠回りというよい経験をされたと感じました。コロナ禍はローカルへの移住という面で安曇野にとってチャンスでもあります。3人の方をリーダーとして、その輪が安曇野全体に広がることを期待致します。

信州安曇野  
**JAあづみ**  
〒399-8283 長野県安曇野市豊科4270-6  
TEL:0263-72-2930(代)  
FAX:0263-72-9270  
JAあづみ 検索

昨年5周年&  
買い物客150万人突破!!  
感謝しあげます  
新春初売りは1/5より  
安曇野スイス村  
**ハイジの里**  
安曇野市豊科南穂高5566-1  
TEL.0263-87-0812